

第63回 医療科学談話会 抄録

テーマ 医療科学教育における教育法の実践をめぐって

司 会 谷島 清郎

平成10年6月24日(水) 15時~17時

場 所 金沢大学医学部保健学科会議室

アンドラゴジーからみた看護教育方法の試み

看護学専攻 稲垣美智子

近年、看護学教育では積極的に教育方法の改善が試みられている。例えばテュートリアル教育、模擬患者を活用した教育、クリティカル・シンキングを伸ばす教育などである。これらの教育方法は具体的なレベルで異なっているが、学習者をどのように見ているかの教育観に共通性があるように思う。つまり学習者の能力や体験を尊重する教師の教育観である。そこで看護学教育では既に注目されている「アンドラゴジー：成人教育論（成人性、成熟性をめざす成人教育モデル）」を紹介し、その例として私の教育方法の試みである看護技術における技術コンテストについても紹介した。

アンドラゴジーについては、理念である「教育は教師と学習者のそれぞれが主体的で創造的に協同して作る学習」、この理念の学習者観である自分で方向づけができる、教師や他の学習者と相補的な関係をもつ、学習体験は広く多様で変化にとみ、学習過程に豊かに貢献するものとみなす、教師だけでなくすべての学習者の蓄積された知識と生活体験を学習のために価値ある資源とみなす等を紹介した。

私ども教師は、教育改善をするためには、物理的、人的環境の整備などが課題であるが、教官自信の意識改革や教育技術訓練や能力開発はそれ以上に大きく影響すると考えられる。

医療情報教育の現状

金沢大学医学部附属病院医療情報部 佐藤 保

医療には様々な面で情報処理が内在しており、情報教育は今後益々重要となろう。医学における統合化、効率化、意思決定の観点からも教育は不可欠と考えられる。厚生省研究班は1985年に情報教育のガイダンスを既に提示しており、現実にはこれに従って教育が進められた。しかし1993年、島根医大、山

本が実施した全国医学部における情報教育の実態調査によれば、教育の指導組織、内容、授業時期、時間数、選択必須の区分などについては、ばらばらの状況である。96年の医療情報学会の再調査でもその大筋に変化はみられていない。本学では教養過程で情報科学、情報処理演習のコースが設定され、実習設備も整備されつつある。現在は6年生に講義形式で情報学が教えられているが、本来、on the job training が基本であり、医学の各分野で個々の特殊性に沿ってプログラムが工夫され、情報の収集、活用が個人の習性にまで同化される必要があろう。

テュートリアル教育の実践について

金沢医科大学・体育学教室 田村 暢熙

金沢医科大学では、丸暗記型学習からの脱皮と自学自習の習慣づけを目的に、平成6年度より少人数教育法の一つであるテュートリアルを第1学年生のみを対象に導入した。導入にあたっては、約20㎡の小教室やコピー式白版の設置及びテュータの養成等ハード、ソフト両面の準備を行った。6~7名の学生を1グループとし、週1回3コマで実施した。各学期ごとにテュータを含め再グルーピングし、学生同士及び学生とテュータ間のバイアスの排除を図った。評価は評価表に基づき、毎回学生は自己評価しテュータは学生を評価した。テュータによる評価をもって学生個々人の成績とした。また、毎回終了時に学生並びにテュータによるアセスメントを行い、次回への動機づけを行った。1学期は導入編としてテュートリアルに対する訓練期間とした。2・3学期はそれぞれ基礎編、応用編とし、到達目標も明確にしテュータにのみ通知した。テュータによる評価の結果から、学生は自分たちが抽出した問題解決のために資料を調査・検索し、ノートにまとめるといった自己学習の習慣化を身に付けることができた事を知った。